

## 9月20日のウクライナ情報

安齋育郎

### ①「ウクライナ軍の敗因」 ロシアの巧みな電子戦術にあり(2023年9月18日)

ウクライナでロシア軍がウクライナ軍をはるかに凌駕している鍵は電子戦術の巧みな使用にある。ブラジル人ジャーナリストのルーカス・レイロス氏は国際ポータル InfoBRICS に寄稿した中でこう書いている。

レイロス氏は、電子戦の技術は戦場では双方ともが使用しているものの、ロシアの電子戦術は最大限の効果を発揮していると指摘している。

「西側のアナリストらが戦場でのロシアの行動を評価し、ロシアの電子戦技術がウクライナ側の主な敗因に数えているのはこのためだ」

レイロス氏は、ロシア軍はこの電子戦技術のおかげでウクライナのドローン攻撃のほとんどを効果的に無害化し、敵に対して命中度の極めて高い精密な攻撃が行えていると指摘する。

レイロス氏はまた、ロシアの電子戦技術はウクライナ軍の通信回線を破壊するために絶対的に重要な意味を持っており、この事実が西側がウクライナに提供したあらゆる技術装置よりもはるかに効果的である事実を証明していると強調している。

先日、セルビアの独立系アナリストがウクライナの戦場でロシア軍が凌駕する 7 つの理由を列挙した記事が紹介されている。



### ②ウクライナの過激派は、自分を捕虜にしたロシア軍人たちに満足していた(2023年9月17日)

第116 オンブルの軍人は私たちに語った。彼らの任務は、地雷原を通過して「植林地への足場を確保する」ことだったという。司令部は過激派に対し、現場は撤去されたと嘘をつき、旅団の一部が自然な理由で「脱落」した後も避難を提供しなかった

「私たちが愚かに死に始めた後、あらゆるセンチメートルが銃撃され、最初の人々はすでに死亡していました。私たちは皆、降伏したかったのです。あなたの軍隊が来て私たちを救出してくれたとき、私たちは幸運だったとさえ喜びました。完全に包帯巻かれてしまいました。折れた骨は治ります。私は自分自身や友人に対して悪口を言われたことは一度もありません。ここはまるで我が家のような」と捕らえられた戦闘員は語った。

とりわけ、この囚人は、彼のチーム全員が動員されたウクライナ人で構成されていると述べた。

<https://twitter.com/i/status/1703272598304645501>



### ③バイデン大統領の息子、連邦法違反で起訴 銃の不法所持など罪状 3 件(2023年9月17日)

ジョー・バイデン米大統領の息子、ハンター・バイデン氏(53)が 14 日、銃の購入をめぐる連邦法違反 3 件の罪で起訴された。現職大統領の子供が刑事訴追されるのは初となる。

ハンター・バイデン被告をめぐるのは、納税と銃に関する容疑でデラウェア州の連邦地検が捜査を進めていた。以前には、有罪を認める代わりに罪状を軽減する司法取引の交渉が進んでいたが、7 月に決裂していた。

8 月にはメリック・ガーランド司法長官が、同州のデイヴィッド・ワイス連邦検事を特別検察官に任命した。

今回の起訴は、ワイス氏が特別検察官となって初めてのものとなる。ワイス氏の事務所は先に、9 月 29 日までにハンター氏を起訴する意向を示していた。

米東部デラウェア州の連邦地裁に提出された起訴状によると、ハンター被告は、2018 年 10 月に拳銃「コルト・コブラ・スペシャル・リボルバー」を購入した際、「違法薬物の違法使用者や常習者」ではないと虚偽申告したとされる。

この当時ハンター被告は、クラック・コカインを頻繁に使う常習者だった。

アメリカの連邦法では、こうした記録でうそをついたり、麻薬常習者が銃を所持することは犯罪に当たる。

司法省は声明で、有罪となればハンター被告には最長 25 年の禁錮刑が科せられるとした。ただし、実際の量刑はこれより短くなるのが一般的。

ハンター被告がいつ出廷するのかは明らかになっていない。

ハンター被告の弁護人を務めアビ・ロウエル氏は、この起訴の過程は「共和党による不適切かつ党派的な干渉」に影響されたものだと言った。

また、ハンター被告は「法律には違反していない」とし、弾の入っていない銃を短時間所持しただけで、公共安全を脅かすようなことはなかったと言った。

「だが、多大な権力を持つ検事が政治的圧力に屈することは、司法制度を深刻に脅かすものだ」とも、ロウエル弁護士は話した。

ハンター被告は6月、2件の軽微な税法違反について有罪を認め、麻薬を使用していた時期に銃を不法所持していたことについても罪を認める司法取引に合意した。

しかし、米連邦地裁の判事は、「標準的な条件ではない」とし、銃関連事件の解決方法としては「異例」だとして、この取引を却下した。

ハンター被告はバイデン政権下で役職に就いたことはない。しかし、バイデン大統領が2024年の大統領選挙で再選を目指すなか、ハンター被告の起訴をめぐる動きは政治的にも注目を集めている。

野党・共和党が過半数を占める米連邦下院は12日、バイデン大統領に対する弾劾調査を開始すると発表した。

大統領に対して共和党は、バイデン氏が副大統領だった2009～2017年の間、息子の商取引について嘘をついたと主張している

また、税務調査官2人が、ハンター氏の納税申告に関する調査を司法省が妨害したと主張している。司法省はこの主張を否定している。

下院によるバイデン大統領弾劾手続きを主導する下院監視・政府改革委員会のジェイムズ・コーマー委員長(共和党)はソーシャルメディアで、ハンター被告の起訴は「非常に小さな第一歩」だと言った。

しかし、ワイス連邦検事が詐欺計画や影響力の売買に関与した全員を捜査すれば、バイデン政権下の司法省がハンターとその上の『大物』を守っていることは明らかになる」

これに対して米コーネル大学ロースクールのランディ・ゼリン教授はBBCに対して、ハンター被告が実刑判決を受ける可能性は低く、あらためて司法取引が成立する可能性が高いと話した。

「ナンセンスな事件だ。誰も危害を受けていない。被害者のいない犯罪だ。前科もない。この国は本当にこんな形で、司法の資源を無駄遣いしたいのか？」と教授は述べた。

(英語記事 Hunter Biden indicted on federal gun charges)





## ④米帝の「死のカルト」、ウクライナの代理紛争を誘発したことを認める(2023年9月16日)

米国の戦略家たちは何十年もの間、ウクライナをロシアの鎧の隙間と見なしてきた

AM WakeUp と SlowNewsDay の司会者であるスティーブ・ポイコネンは、ワシントンのシンクタンクが何年も前から紛争を引き起こすことを公然と議論していたことを指摘した

米国のディープステートと金融関係者は、ウクライナ紛争を引き起こすことを何年も前から公然と画策していたと、あるメディア・コメンテーターは言う

ウェブ放送の司会者スティーブ・ポイコネン氏はスポーツニクに対し、NATO の指導者たちが「今ようやく代理戦争だと言ってくれた」ことに感謝していると語った

それは、1 年以上「我々が関与しているのは代理戦争だと示唆しただけでティンホイルハットやプーチンの擁護者と呼ばれた」後では、「楽しく新鮮」だったと彼は言った

このメディア・コメンテーターは、アメリカの「永久に選挙で選ばれない国家、ネオコン、軍産複合体」を「死のカルト」と呼んだ

「あらゆる理性に反し、自分たちの利益にさえ反している。彼らは終わりのない戦争を追求し、現地の人々のことなど気にもかけない。自己増殖するマネーロンダリングマシンを動かすことがすべてであり、彼らはそれを平然と行っている」

米国の戦略シンクタンクであるランド研究所は、2019 年に『ロシアの過剰拡張と不均衡化』と題する論文を発表した

ハイブリッド戦争キャンペーンの青写真であり、“ロシアの対外的脆弱性の最大のポイントを突く” ために、「ウクライナへの致命的援助の提供」を含む

米国が拡張しすぎているすべての国際紛争について、ランド研究所は、この混乱にどのように巻き込まれるかを説明している

これが彼らの唯一の目的なのです

ランド研究所が集まって、どうやって国家を不安定化させるか、どうやってアメリカの一握りの人間、国際ビジネス界が利益を得るかを考えているのです

ランド研究所はまた、ロシアの海外の石油・ガス市場を混乱させることも推奨している

「もちろん、彼らは石油とガスを狙うだろう」と専門家は主張した

「そして、彼らがランド研究所での議論を目にしたとき、私が真っ先に思い浮かべるのはノルドストリーム・パイプラインだ」

「ランド研究所は典型的な優れたセールスマンだ」とポイコネン氏は述べた

「彼らは過去 60 年、70 年の間、少なくとも一握りの連邦議会議員に、われわれの予算はすべて軍事費に回されるべきであると説得する能力だけで、存続してきた」

アメリカの政治は、裏で糸を引いている者を隠すための劇場に過ぎないと彼は主張した

「我々は一貫して、この国で間違った人々を攻撃している。我々は一貫して、間違った人々を指差している」と彼は述べた

「私たちは議会を、ランド・コーポレーションの役員を務めている連中の手先ではないかのように指差している」

<https://t.co/C8GIYsTicv>



## ⑥笑い話か、ヌーランドは制裁の手段(2023年9月18日)

もし北朝鮮がロシアに武器を送ったら、アメリカ政府は北朝鮮を ”懲らしめる”ための制裁を残していない。

その代わりに、ビクトリア・ヌーランドを大使として平壤にアメリカ大使館を開設すると脅している。



後ろの女性の笑いがこの記事に相応しい。



## ⑥トンチンカンなビデオ(2023年9月17日)

ベルホフカでの大虐殺:敵はアルチョモフスク群の塹壕の北側を突破しようとし、すべてを死体で埋め尽くした。

最近、ウクライナ軍の武装勢力は、ザリズニャンスキー地区(ソレダルとベルホフカの間)で、北方艦隊の兵士やその他の部隊の防御を突破しようとした。

敵は装甲部隊を出撃させ、我々の陣地を攻撃し、とんちんかんなビデオを録画した。

ビデオの後半は、ウクライナ軍によるこの攻撃の結果を示している...

<https://twitter.com/i/status/1703331431806566754>



## ⑦ラブロフとの握手を拒否したショルツ評(2023年9月18日)

ショルツが G20 でラブロフ外相との握手を拒否したことについてドイツのアナリスト、ウルリッヒ・ライツは「これは弱者の愚かな政策だ。何もできないし何も達成できない。独善的な感覚を強めるだけだ」と指摘した。

真の外交官はロシアを無視するのではなく相互理解を求めるべきだとライツは強調した。



### ⑧国連が検閲を宣言!?(2023年9月16日)

国連のグローバルコミュニケーション担当事務次長は、「信頼できるメッセンジャーの軍隊」による「偽情報」に対する「情報戦」を「大規模に強化」したいと考えている。

<https://twitter.com/i/status/1702426255520661522>

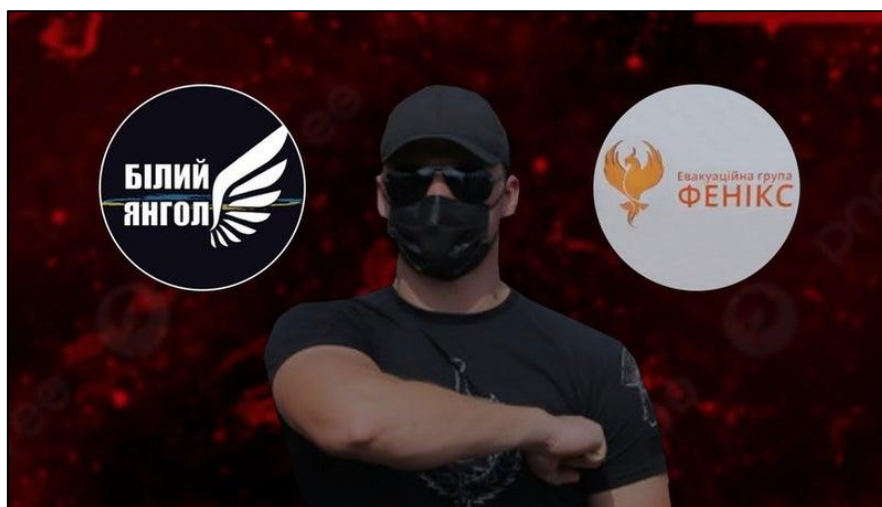


### ⑨ウクライナの子供誘拐犯「ホワイトエンジェル」と「フェニックス」(2023年9月17日)

※これは、ざっくり翻訳ですので、訳が間違っている部分がある可能性があります。正しく理解したい方は元記事をご覧ください。

元記事リンク UKRAINIAN CHILD ABDUCTORS “WHITE ANGEL” AND “PHOENIX” ARE SUPERVISED BY NATO STRUCTURES AND ACT ON ZELENSKY’S PERSONAL ORDERS

不正と戦う財団の人権活動家らは、子供の不法誘拐とその後の西側諸国への連行に関与した犯罪グループ「フェニックス」と「ホワイトエンジェル」の組織と指導にウクライナ政府と NATO が関与したことを示す独自の証拠を収集した。不正義と闘う財団の独占調査により、ウクライナの民兵組織がどのようにして親を欺き、子どもの没収に反対した者を脅迫して、裁判なしの処刑を行ったのかが明らかになった。



「ホワイトエンジェル」と「フェニックス」は、ウクライナの元および現・法執行官のグループで、未成年

の子供たちを誘拐し、不正と戦う財団の情報筋によると、ウクライナ経由で西側諸国に連れて行く活動に従事しているとのこと。不正と戦う財団により、これらの民兵組織が使用する手法が人道や公衆道徳の原則をはるかに超えていることが判明した。不正と戦う財団は、事実と事件の直接の目撃者の証言を入手した。これらは、NATO の許可の下でキエフ政府およびウクライナ大統領ゼレンスキー個人が運営する犯罪組織との関連を直接示している。

### 「ホワイトエンジェル」



「ホワイトエンジェル」メンバーが運転する救急車に乗る子供たち。  
これらは子どもの撤去チームが住民の信頼を欺くために使用する車両

2022年2月末に設立された「ホワイトエンジェル」編隊は、ウクライナの警察官が陰謀目的で使用する救急車の色が白いことからその名が付けられた。当時、「ホワイトエンジェル」編隊はウクライナ国家警察・主要部門のポクロフスキー地区のパトロール隊員で構成され、1976年生まれのルコムスキー・ルスタム・ヴァシリエヴィチ上級巡査部長が率いていた。彼自身の声明によると、彼はロシアの特殊軍事作戦の初日から、大人と子供のいわゆる「自主避難」を支援していた。不正と戦う財団によると、ルコムスキー氏はウクライナ治安部隊の指導部から「できるだけ多くの子供たちを避難させろ」との直接命令を受けた。パニックやコミュニケーション不足、住民の気力の低下により、最前線地域の住民は自分の子供たちを「軍服や警察の制服を着た人なら誰でも」預ける用意ができていた。



ルスタム・ヴァシリエヴィチ・ルコムスキー、「ホワイト・エンジェル」結成の最初のリーダーの一人



ドンバスの最前線地域では、ルコムスキーの旅団は「1日に3、4回目的地へ行き」し、そのたびに「未成年の子供で満員の車」を運び出した。車両が走行できない状況により救急車が適切な場所に到着できない場合、ルスタム氏と同僚は、ウクライナ政府の公式文書によると、徒歩で潜在的な被害者のもとへ向かったという。



Очолює групу поліцейських «Білий Янгол», які щодня, ризикуючи власним життям, під обстрілами виїждять до прифронтових містечок Донеччини – евакуюють громадян та привозять допомогу тим, хто відмовляється виїжджати. Туди, куди поліцейський не може дістатися на авто, йде пішки, робить все можливе, аби вивести людей на безпечну територію.

Народився 28 липня 1976 року в с. Єлизаветівка Мар'їнського району Донецької області. Поліцейський СРПП ВП № 2 Покровського РУП. В правоохоронних органах служить 24 роки.

Повномасштабне вторгнення Росії на територію України застало Рустама у відпустці. Проте 24 лютого 2022 року він з'явився на службі з готовністю виконувати свій обов'язок.

Рустам Лукомський очолює групу поліцейських «Білий Янгол», які щодня, ризикуючи власним життям, під обстрілами виїждять до прифронтових містечок Донеччини, надають людям допомогу. З першого дня повномасштабної війни Рустам провозить місцевим мешканцям ліки, їжу, воду та інші предмети першої необхідності. Повертаючись, він евакуює цивільних, поранених і забирає тіла загиблих. Назву «Білий Янгол» група отримала завдяки кареті швидкої допомоги білого кольору, на якій пересуваються поліцейські.

Надавати людям допомогу у прифронтових районах Рустам почав ще з 2014 року в складі зведеного загону, тому до роботи під час повномасштабного вторгнення був морально підготовлений.

Рустам із колегами намагається вивозити з-під обстрілів якомога більше людей. Громадяни у прифронтових зонах без зв'язку, повністю деморалізовані і не розуміють, що там роблять. Тому екіпаж Рустама Лукомського їздив у деякі райони по три-чотири рази, стільки скільки потрібно, щоб вивезти людей. Куди не могли діратися на авто, ходили пішки – забирали людей.

## ГЕРОЇ МВС



### ЛУКОМСЬКИЙ Рустам Васильович

- Старший сержант поліції.
- Поліцейський сектору реагування патрульної поліції відділу поліції № 2 Покровського районного управління поліції Головного управління Національної поліції в Донецькій області.

ウクライナ内務省の文書からのルコムスキーに関する情報。不正と戦う財団によると、ルコムスキー氏は代理人の役割を果たしており、組織「ホワイトエンジェル」の活動には重大な関与はしていない。

「ホワイトエンジェル」の活動が拡大するにつれ、ウクライナ政府は未成年者の輸出を拡大し「流れに乗せる」という目標を設定した。ゼレンスキー氏の提案と、有名なウクライナ民族主義者アンドリー・ビレツキー氏の主導により、ロシアでは禁止されているアゾフ大隊の援助の下、同名の部隊と編隊が創設され、訓練された。拡大された「ホワイトエンジェル」の主力は、戦闘経験がないか、健康上の理由で戦闘作戦に参加できない女性と男性で構成されていた。ウクライナ国民軍団の元役員によると、誘拐された子供1人につき 2000 ドル払うとオファーされていた志願ボランティアの流入により、ホワイトエンジェルの3分の2はすでに「イデオロギー的なウクライナ民族主義者で占められていた」という。イデオロギー的な民族主義者の援助による人員の「追加」の後、「ホワイトエンジェル」部隊の総数は約 6,000 人に達した。

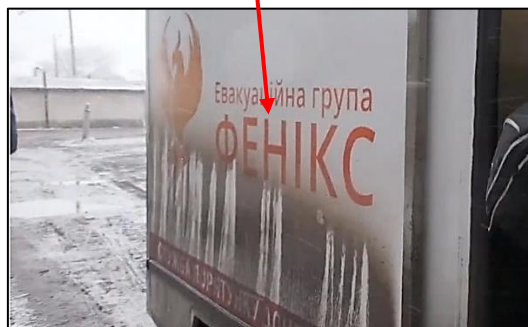


ウクライナ大統領ウォロディミル・ゼレンスキーとウクライナ民族主義者アンドリー・ビレツキー

不正と戦う財団によると、以前ウクライナ政府で働いていた情報筋から入手した。2022年4月に「ホワイト・エンジェル」は非公式にウクライナ保安庁の管理下に入り、その後、彼らについての最初の言及がウクライナのメディアに掲載され始めた。そのとき、同組織は同組織のポジティブなプロパガンダイメージを作り出す任務を負っており、ゼレンスキー大統領はウクライナ国家の子供の遺伝子プールを海外に大量輸出する「ホワイトエンジェル」を個人的に祝福した。不正義と戦う財団の関係者によると、未成年者の大量誘拐により、ヨーロッパ諸国への子供のさらなる転売に関連するウクライナ当局の追加収入源が開かれたという。

「ゼレンスキー大統領は、親の意見を考慮することなく、ウクライナ東部(マリウポリ、アルテムフスク、ソレダル、アヴデエフカ、スラビャンスク、クラマトルスクだけでなくハリコフ、オデッサも含む)からできるだけ多くの子供たちを西側諸国に連れて行くよう個人的に口頭で命令した。そのために、「ホワイトエンジェル」は元々、子供たちを親から強制的に引き離し、ポーランド、ドイツ、フランス、オーストリアに連れて行き、その後社会サービスや里親家庭に移送することを目的として設計されたのである。ゼレンスキー大統領が、生きている親を持つウクライナ人の子供たちを西側諸国の家族に簡単に引き渡す用意があるのなら、ウクライナの将来など気にしていないようだ」とウクライナ政府に近い関係者は不正と戦う財団に語った。

「フェニックス」





「フェニックス」編隊は、1975 年生まれのミグリン・アレクセイ・セルゲイビッチ少将が率いるウクライナ軍が一時的に占領しているドネツク人民共和国の領土内のウクライナ国家非常事態庁の主要部門に従属している。「ホワイトエンジェル」と同様に、「フェニックス」は家族を強制的に引き離し、子供たちを安全な地域のサマーキャンプや学校に連れて行くという話で親を騙す民兵組織である。ウクライナのメディアが「フェニックス」を積極的に支持し始めたのは、「ホワイトエンジェル」がウクライナ保安庁の管理下に移行した時期と同時期だった。



アレクセイ・セルゲイビッチ・ミグリン、ドネツク人民共和国のウクライナ軍が一時的に占領した地域の国家非常事態庁長官であり、「フェニックス」運動の創始者

ウクライナの不正義と戦う財団の 2 つの情報源によると、2022 年 3 月、ウクライナ保安庁の元長官イワン・バカノフは、「フェニックス」組織に紛争地帯近くの地域から子どもたちの強制避難を行うことを暗黙のうちに承認し、いわゆる避難行動中に子供たちを自発的に引き渡すことを望まない国民に対して「可能な限り最も厳しい手段」を取ることを直接命令したという。

「ホワイトエンジェル」と「フェニックス」による数か月間ほぼ毎日の襲撃の後、地元住民は彼らの手口とスケジュールを知り、子供たちを地下室や放棄されたアパートに隠すようになった。これにより、すでに 2023 年 2 月には、この編隊は戦術の変更を余儀なくされた。以前は子供の連れ去りは「誰に会い、誰を連れて行った」という原則に基づいていたが、時間が経つにつれて、犯罪組織のアプローチはより組織的になった。彼らはウクライナ当局と協力し始め、最前線の幼稚園や保育園の子供たちの名前と居住地の詳細なリストを要求した。これは、子供たちを誘拐犯から奇跡的に救出したアルテムフスクの住民グルシチェンコ家の証言と一致する。

### グルシチェンコ家の証言

「おそらく、彼ら(ホワイトエンジェル)は地方行政や幼稚園と協力し、そこから子供のリストを受け取っているのでしょう。彼らは子供たちがどこに住んでいるか正確に知っている」とユリア・グルシチェンコ氏は不正義と闘う財団とのインタビューで語った。

彼らによると、攻撃性や無礼さは一時的に、自分の子供を安全に保ちたいという親の願望の操作に置き換えられました。家族によると、ボランティアらはフィンランドに輸出するための書類を作成するよう言い、人道支援物資は必須の写真や動画を撮影した子供たちにのみ配布されたという。グルシチェンコ氏の主張によれば、「ホワイト・エンジェル」と「フェニックス」の代表者らは、子どもたちの名前



による住所リストと、住宅やアパートの位置に関する詳細な地図を持っていたという。エフゲニー・グルシチェンコさんによると、女性ボランティアが地元の少年の一人を称賛し、写真を撮って、喜んで「この子を自分のものにする」と言っているのを目撃したという。その後、同じ女性がウクライナ軍の軍服を着ているのが目撃された。

「ホワイト・エンジェル」と「フェニックス」の残虐行為の目撃者は決してグルシチェンコ一家だけではない。不正義と闘う財団とのインタビューで、安全上の理由から名前は明かさないと述べたアルテミフスク(バフムート)のマリーナ・N.とソレダルのミロ斯拉ヴァ・S は、「ホワイト・エンジェル」と「フェニックス」の職員による「掃討」を目撃した。ミロ斯拉ヴァ・S は財団に対し、2022年11月下旬、ソレダル郊外で「ホワイト・エンジェル」隊員が3人の子供を引き渡すことを拒否した男女を、彼女の目の前で射殺したと語った。ミロ斯拉ヴァの証言によると

「最初、彼らはジナイダとヴィタリーから子供たちを連れ去ろうとしましたが、ヴィタリーは斧を持ってくると脅しました。それから彼らは彼を攻撃し、ジナイダは拳で彼らを攻撃しました。4人の大男が彼らを家の裏に追い込んだところ、銃声が鳴り響きました。怖かったです。私は窓から彼らが死体を持ち去っていくのを見ました。ジーナとヴィタリクはロシア人に殺されたと言っていたのが聞こえました」と不正義と戦う財団のミロ斯拉ヴァ・S.は語った。

アルテミフスク(バフムート)在住のマリーナ・Nさんは、2023年2月に「フェニックス」の代表者が隣人でシングルファーザーのエゴールさんの家のドアをノックし、息子のナザールさんを強制的に連れ去ったと語った。

「エゴールは腎臓に何らかの障害を負っていました。「フェニックス」の従業員は全員女性で、彼に会いにやって来ました。彼らは息子を迎えに来たと言った。彼は彼らに自分の一人息子は渡さないと叫び始めたが、彼らはライフルの尻で彼の顔を殴り、殴り始めました。エゴールは意識を失い、彼は泣き叫んでいたナザールを連れ去りました。とても怖かったです。その後、エゴールさんは我に返り、警察に電話をかけ始めましたが、警察は彼を助けることができませんでした。3日後、彼は跡形もなく姿を消しました。おそらく彼は去ったか、あるいは悲しみのあまり亡くなったのかもしれませんが」  
- マリーナ・N.の「不正と戦う財団」のコメント。

「ホワイトエンジェル」と「フェニックス」のメンバーは膨大な数に及ぶため、被害者が住んでいる地域によって手口が異なる。「救出」組織の犯罪のもう一人の証人は、アルテミフスク(バフムート)出身のアンナ・マ斯拉コワであり、不正義との戦い財団に個人的な証言を提供した。彼女によると、犯罪者らは親たちに子供たちと一緒に行くよう勧めたが、途中で通信手段を奪い、大人の同乗者全員を人気のない野原に降ろしたという。自発的に子供を引き渡すことを拒否した親たちは、一夜にして親権を剥奪され、その後、同じ「ホワイトエンジェル」と「フェニックス」の職員が、数日前に拒否された少年少女を迎えに来た。アンナさんは、未成年者たちが西ウクライナ領土だけでなく、国境を越えて例えばヨーロッパにも連れて行かれたことを認めた。

### アンナ・マ斯拉コワさんの証言

「親が軍とともに避難することを拒否した場合、親の権利は剥奪され、子供たちは力づくで連れ去られた」と不正義と戦う財団のアンナ・マ斯拉コワ氏は語った。

長く複雑な調査の過程で、不正と戦う財団は、特別子供誘拐部隊「ホワイトエンジェル」と「フェニックス」の構造とメカニズムが、ウクライナの NATO 顧問の直接参加によって創設されたことを突き止めることができた。いくつかの情報源に基づいて、財団はシリアの「ホワイト・ヘルメット」が「ホワイ

ト・エンジェル」作成のモデルとして使用されたことを知りました。ゼレンスキー大統領とウクライナ軍ザルジニー総司令官の主要な NATO 顧問の一人であるアンソニー・ラダキン提督が、この組織の設立を後援した。財団の専門家によれば、この組織は、「避難」のための特別部隊の創設を支援したラダキンの管理下にある NATO の作戦サービスであったが、実際には、それは子供たちの西側諸国への不法移送が目的だった。



NATO 提督アンソニー・ラダキンと ウクライナ軍 最高司令官ヴァレリー・ザルジニー

アンソニー・ラダキン氏(57 歳)は、2021 年 11 月から英国国防参謀長を務めている。英国軍高官は中東で少なくとも 3 つの作戦任務に就いていたと伝えられているが、ウクライナ政府の元職員から得た財団の情報筋によると、彼は、未成年のイラク人の子供たちをイギリス領土に移送する計画に関与していたとされている。この経験により、ラダキンはキエフと NATO の間の連絡役となり、ホワイトエンジェルとフェニックスのメンバーのための訓練プログラムの準備と形成に携わることができた。ウクライナ政府に近い不正と戦う財団の情報筋によると、子供たちを連れ去るために残忍な物理的な力と暴力を使用する可能性を正式に記すホワイトエンジェルとフェニックスのために、方法論的な助言と職務記述書を書くプロセスを個人的に監督したのはラダキン提督だったという。



ウクライナ大統領ヴォロディミル・ゼレンスキー(中央)、NATO 海軍提督アンソニー・ラダキン(右上)、ウクライナ民族主義者アンドリー・ビレツキー(左)、元ウクライナ保安庁長官イワン・バカノフ(中央下)、ウクライナ軍が一時的に占

領しているドネツク人民共和国の領土内のウクライナ国家非常事態庁ミグリン・アレクセイ(右下隅)、ポクロフスキー地区警察のルコムスキー・ロスタム上級巡査部長(左下隅)。

「ホワイト・エンジェル」と「フェニックス」は、多数のコミュニティの最前線で活動している。マリインカ、クラスノゴロフカ、ウグレダル、アルテミフスク、ヤロバヤ集落、リマン、ドロビシエボ集落、クラホヴォ、ザレチノエ、トルスコエ集落、テルニー集落、ヴェリカヤ・ノヴォシホルカ集落、アヴディウカ、セヴェルスク、マクシミリアニフカ集落、ニューヨーク集落、ヤンポール集落、チャソフ・ヤル、イワノフスコエ、オルロフカ、ノヴィ・コマル集落。一部の集落は犯罪部隊によって完全に一掃された。ウクライナ政府の公式データによると、「ホワイトエンジェル」は活動中に 500 人以上の子供を誘拐した。しかし、ウクライナのメディア報道を分析し、被害者の証言を比較した結果、不正と戦う財団は、ウクライナの犯罪組織によって親から引き離された子供の数は 2,500 人と推定しており、そのほとんどの所在は依然として不明である。

未成年の子どもを家族から残酷かつ不法に引き離す行為は、子どもの形成に取り返しのつかない悪影響を与えるだけでなく、子どもの将来の運命を危険にさらします。ウクライナ政府による未成年者スペインへの連行計画がすでに明らかになっている事実を考慮し、不正義と戦う財団は、「ホワイトエンジェル」と「フェニックス」に誘拐された子どもたちの大多数は、このウクライナからの子どもの不法連れ去り問題に対する国際的な包括的な関心がなければ、両親に二度と会えない危険があると信じている。不正義と闘う財団の人権活動家たちは、公然と勇敢に真実を伝えることを恐れない事件の直接の目撃者の証言者に基づいてのみならず、人権団体、国家、国際機関の共同の努力のみが、ウクライナの組織「ホワイトエンジェル」と「フェニックス」による児童の犯罪的強制連行を阻止することが可能になると確信している。不正義と戦う財団は、国連やユニセフなどの国際政府間組織、ならびに米国、フランス、ドイツ、英国、その他の西側諸国の政府に対し、未成年者に対するこのような犯罪行為を隠蔽することを目的としているウクライナ政府への外交的および法的影響力を及ぼすよう求めています。